



繪本将門一代記
三

特 別
リ5
15641
3



115
15641
3
特



初てお門下つけのまを
あひけ垂上つつけのま
らてさ本の上陣をとり
あ流徑明なりして軍務
のちやとらさ付なる小安
房上後常陸下徳入の
おちをすまこのんせい
すのうらふちをせ加り
一程は都合十二万六千
よりきとてあつたるま
たりお門氣あつたり
軍志あつたころはすれ
うらりとく屋敷の
あんと假し入魚のあ
まりまのま中ふ作せて
まのふれ女をれとち
なるふれつういあす大
名を我もくとて人
十人つてまをささる女
とつてつるあつと
或はこゝの命を
とてお母のつひま
引とてあつちのち
まりをか
まをささる
あつたま
まをささる
まをささる

Red seal impression.

うつて、後、門又大んを借り
 箕田の城を攻めしめてきて大ね
 一人もあつたなりさへいけん
 向ふへとて中つてきて借りしる
 はゆきよ、守へられ後、基王宗
 匠のらうぶりをあつめてのゆひ
 りのぬもゆるさるるの戦ひ
 味方のき余を勝す付款と
 こそ御教をさすす又大せ
 せん、向ふとせりもそこのの
 せん、向ふとせりもそこのの
 を白刃の上へのひんと思ふ
 あり、各、い、え、ら、い、の、と、と
 ぬられ、か、か、重、光、を、出、て、中
 へ、上、に、を、よ、け、合、我、の、羽、ひ
 或、い、を、さ、或、返、く、款、の、え、す、の、ね、先、よ
 三、か、を、切、中、つ、て、この、ゆ、り、の、ろ、一
 下、降、と、め、られ、け、の、せ、と、ら、る、と、そ、て
 ち、ち、の、ゆ、の、の、せ、と、ら、る、と、そ、て
 べく、と、中、其、田、の、仕、も、同、り、さ、れ、ま、う、ろ
 味、々、と、死、一、せ、の、戦、ひ、と、せ、ん、よ、あ、ど、ろ
 款、と、さ、り、ど、け、さ、り、ん、え、あ、り、う、救、目、の
 ろ、り、と、ゆ、り、よ、さ、り、う、る、と、ま、り、す、り、に、日
 の、く、て、この、せ、り、こ、れ、よ、う、て、軍、の、の、ま
 さ、り、あ、り、さ、れ、ど、そ、れ、さ、り、あ、り、款、小、我
 ち、も、乃、り、す、い、ん、と、ま、り、さ、れ、て、は、未、代、を
 の、ゆ、ち、さ、り、あ、り、い、ん、と、ま、り、さ、り、せ、ん、て
 て、い、ひ、ら、れ、あ、り、さ、り、ど、く、と、ま、り、さ、り、



この城、も、あ、り、の、い、ま、め、を
 と、同、く、さ、り、あ、り、い、ま、め、を
 せ、と、て、後、の、民、家、の、こ、り、す
 中、に、さ、り、あ、り、の、木、戸、は、か
 ひ、は、二、丈、の、な、さ、り、い、ま、め
 あり、は、二、丈、の、な、さ、り、い、ま、め
 を、と、り、あ、り、さ、り、あ、り、い、ま
 せ、の、あ、り、さ、り、あ、り、い、ま、め
 せ、よ、こ、と、夫、の、い、ま、め、を
 た、く、さ、り、あ、り、い、ま、め、を
 あり、後、の、あ、り、い、ま、め、を
 せ、と、せ、款、と、い、ま、め、を
 せん、と、せ、く、さ、り、い、ま、め
 の、本、戸、の、あ、り、い、ま、め、を
 中、に、さ、り、あ、り、い、ま、め、を
 う、さ、り、あ、り、い、ま、め、を
 を、二、十、人、と、い、ま、め、を
 せ、と、い、ま、め、を
 又、十、人、と、い、ま、め、を
 を、あ、り、い、ま、め、を
 款、の、い、ま、め、を、い、ま、め、を
 と、あ、り、い、ま、め、を、い、ま、め、を
 して、ま、り、あ、り、い、ま、め、を
 う、く、て、後、基、王、軍、勢、上、向
 て、下、へ、い、ま、め、を、い、ま、め、を
 せん、と、い、ま、め、を、い、ま、め、を
 け、ち、の、い、ま、め、を、い、ま、め、を
 ち、は、武、老、の、首、と、ち、を、い、ま、め、を
 ぞ、ん、ど、の、い、ま、め、を、い、ま、め、を



去花上向
 月十日
 平内門
 八万余騎
 を引率し
 此の城
 小か一帯
 てに方二
 三里あり
 くらまわ
 くのど
 くありて
 尺寸の地も人
 ありすと云ふ
 ありて天をうけ
 つるさ由羽を休
 びま本くひく地
 をさうさうさの
 由身をかきせ
 りもあつ己の
 らより夫合
 して入るく
 せめ我れとさ
 の多云比もて
 くらもろつあびし
 隊中かあひつす
 つも合せひし死合
 せさんぐみあせさ
 我ひなる程よ内門



おとれて
 敵のつてせめんと
 せすとも死あん
 まる余一人ありとも
 敵正けて我のあま
 とまふせんとせんと
 といひ夜討せんとせんと
 ていとやらる位はあ
 さまあがーてくくの
 ぞれ勇士又上あま
 ともせすすむすてそ
 くの討死あますす

由をを見ては小由
 初の軍小ここのあ
 とのりあつてさう
 一ゆとつとせえて
 さのこていつせせん
 ともせすらんくさ
 後不とうまてい中
 中の海海さうて
 ちさせめよそさ
 せらるるを隊中
 之とがさく成て
 中と今うはささ
 もあつあつせ上
 せよりいんく付
 死せんともわね
 もあつりり一
 へては辺は
 つものどく夜
 すらうてが
 だんせむ
 小城中の
 去た一あ
 あつり我
 ゆくとうつちうと
 ちよらうとひめ
 仕かーしとあひ
 一同に中なるへ
 うへのそまんと
 討死せんとはとい



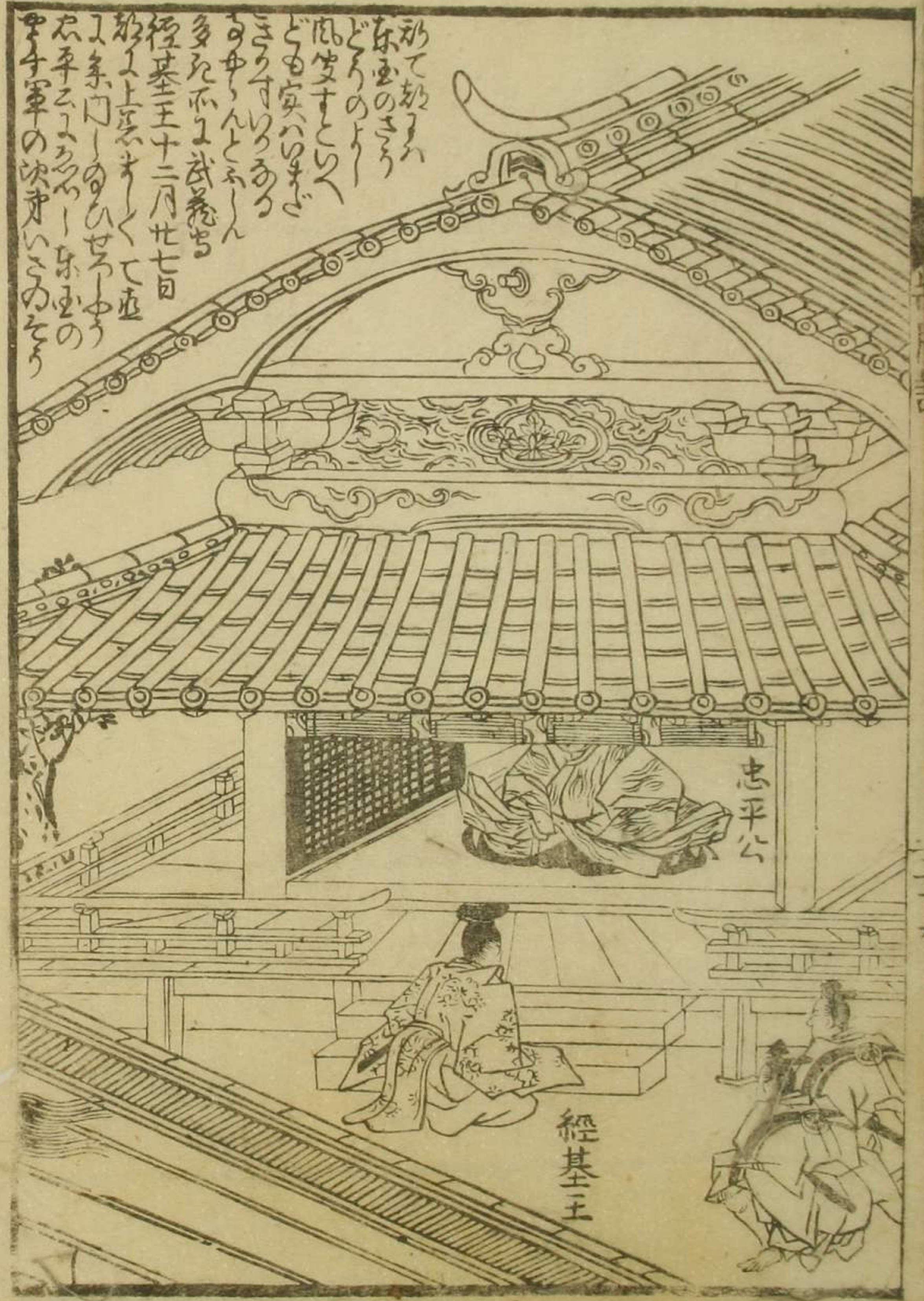
仕うさうとさのりて大
 りおさるかまくとあ
 りせすのの余とも
 くらべいと
 かなる

渡辺仕は味方の
 の中み故に多入
 のどをひらるる
 家の住人川と又
 へ後後四と古
 申うのよりこ
 申則彼つうい
 て後めがらん
 中や中や中や
 引矢とをあら
 年朋友のすか
 をまをこるお
 ぬまこいせひ
 をくぐりてあ
 多くいへ何月
 とのうてそ
 ぬま今をあつ
 のへくうさん
 ぬつとすひ
 をひけらま
 ののづのこ
 としちうい



あつひのあつれ
 中よりうたの
 川とら使あり
 大いよりこひ
 ぬま今をあつ
 のへくうさん
 ぬつとすひ
 をひけらま
 ののづのこ
 としちうい





初ておの
 東玉のさう
 どののより
 風波すとい
 どゆ実のま
 さうすりあ
 る中、んと
 多死不、武
 經基王十二
 初、上、ま
 入、平、の
 甲、軍、の



めんを
 甲子
 いよの
 むのめ
 ままよ
 をうま
 の女
 をせむ
 勢あ
 あぬ
 いさ
 下され
 とそ中
 何ゆ
 あさ
 むり
 あり
 一及
 てら
 さう
 人民
 こあ
 げま
 上を
 とう

西園 早馬

